

40周年記念式典の開催について

ナガセプラスチックスは、2015年3月1日に創立40周年を迎えるにあたり、東京・大阪・名古屋にて新年会を兼ねた40周年記念式典を開催いたしました。

開会に際して、北口社長より挨拶があり、創立時のエピソードや今日までの歩みについてご披露いただきました。各地とも美味しい料理やお酒に舌鼓を打ちながら、歓談やビンゴゲーム等のイベントを楽しみ、和気あいあいの楽しいひと時を過ごしました。

そして次の50周年に向けた新たな歩みとさらなる発展を誓い合いました。

① 日時・会場

東京	2015.1.19 開催	場所: CRUSE CRUSE THE GINZA (参加人数 55名)
大阪	2015.1.27 開催	場所: 心斎橋セントグレースヴィラ (参加人数 37名)
名古屋	2015.1.29 開催	場所: THE KITCHEN (参加人数 9名)

② 社長挨拶

『あらためて明けましておめでとうございます。そして何よりもナガセプラスチックスの創立40周年おめでとうございます。NPCが始まった最初の「源流」を知る者の一人として、挨拶したいと思います。朝礼でも少し話し、記念誌にも書きましたが、創立前夜のエピソードを話しておきたいと思います。』

私は昭和48年、1973年に長瀬産業に入社し、大阪の合成樹脂部包材グループに配属されました。その年には最初のオイルパニックが発生し、翌年は物が全く売れない不況の年でした。開けて昭和50年、1975年の1月の下旬に、ちょうど今より少し遅い頃、正月の挨拶回りも終えて、グループ員全員で新年度の計画を作成していました。その頃は大阪本社のそばにある新町ビルに営業部隊が入っていましたが、夕方から近くの「横堀寮」という出張者用の宿泊施設でその作業を行っていました。始めてしばらくすると、電話のベルがなり、一番若手の私が受話器を取りました。当時営業の鬼と言われた合成樹脂部部長の山崎耕司さんからのものでした。「計画作業は中断して良いので、もう会社に戻れ」ということで、大変驚きました。後になって分かったのですが、「近々新会社を設立するので、今のままの組織での計画は必要ない」という意味でした。そして翌々月の3月1日に「西部ナガセプラスチック製品株式会社」が設立され、長瀬産業から包材製品ビジネスが移管されました。それが現在のナガセプラスチックスの「源流」となりました。

その後、日本の高度経済成長の勢いにも乗り会社は順調に成長し、創立6年目に売上50億円を超え、創立10年目の1984年度に売上100億円を突破しました。その後、数々の世界の政治・経済の変動や天然災害を乗り越え、創立36年目の2010年に200億円を超え、そして昨年度の創立39年目に売上300億円超

えを果たしました。

私は司馬遼太郎の小説「竜馬がゆく」が学生時代からの愛読書で、そこに出てくる「峠の祠」の話が大好きです。「ふもとから見上げていると、峠にある祠にはいつも灯火が灯っており絶えることはない。それは灯火が消えるまでに山伏がやって来て火をつける、その火が消えるまでにまた次の山伏がやって来て火をつける。次々と山伏がやって来て火を灯すことが、何年も何十年も何百年も続いている。」という話です。

NPC は来る3月1日に満40歳を迎えますが、代々の先輩が灯した火を着実に受け継ぎ後輩にバトンタッチしなければなりません。各々が各々の持ち場で「はたらく」と「あきない」を実行し、受け継いだものをより大きく成長させて、次の50周年、さらに100周年へと発展させていく姿が目に見えます。ちなみに50周年の時は私は75歳、100周年の時は125歳で、長生きしてぜひ大躍進の姿を見たいものです。本日は本当におめでとうございました。』